

## 北海道地方メディア連携協議会（現地見学会） 議事概要

日 時：令和4年10月31日（月）13時30分～17時00分

場 所：寒地土木研究所、幌平橋、月寒水位観測所、豊平川河川防災ステーション

出席者：札幌テレビ放送株式会社、北海道テレビ放送株式会社、北海道放送株式会社、  
国土交通省北海道開発局、気象庁札幌管区气象台、北海道【計6団体】

### 【議事】

1. 開会（寒地土木研究所：講堂）
2. 豊平川の氾濫シミュレーション、既往最大水位など（幌平橋）
3. 川の防災情報による情報発信、市街地河川の特徴（月寒水位観測所）
4. 河川防災ステーションの機能、資材備蓄状況（豊平川河川防災ステーション）
5. 勉強会（豊平川河川防災ステーション：2階会議室）
  - 1) 川の防災情報の使用方法
  - 2) 防災用語の解説
  - 3) 出水時における開発局の動き
6. 意見交換（豊平川河川防災ステーション：2階会議室）

### 【主な意見・質問等】

- ・昭和56年8月洪水時が既往最大の水位とのことであるが、その時の雨量・水位はどの程度であったか。
- ・豊平川は急流河川であると伺ったが、どのような被災が考えられるか。
- ・水位観測所が出水時に欠測になっていることがあるが、理由は何か。
- ・水位の他に流量も観測しているが、地域へ提供が必要な情報としては水位でよいか。
- ・水位観測所と危機管理型水位計との違いが分かった。
- ・豊平川河川防災ステーションに備蓄されている根固めブロックの個数の根拠は何か。
- ・メディア側も出水時は慌ただしいため、水位情報等をプル型ではなくプッシュ型配信にはならないものか。
- ・緊急放流の実施が決定してから開始されるまでの時間はどの程度か。
- ・緊急放流の実施に関する情報の発信はどのようになっているか。
- ・近年、大きな洪水が頻発している。将来の気候変動も考慮し河川の計画を考える必要があるのではないか。

以上